

東曾野木小学校



学校データ

【学級数】

10学級

【児童生徒数】

168人

【地域コーディネーターの有無】

有・無

地域での体験学習を通して、問題意識をもって思考する児童の育成

1 はじめに

当校は校区が広く、田が広がっている地域や、大きい団地を含んでいる。全ての学年が単学級であり、縦割り遠足で鳥屋野潟公園に行く等、縦のつながりも大切にしている。

4学年の総合的な学習の時間では、前述の縦割り遠足で歩いて行ける位置にある鳥屋野潟について学習を行う。今までは鳥屋野潟で育つ魚について学ぶことを続けていたが、昨年度からは栽培・販売している空芯菜について学んでいる。

校内の学習だけでは、空芯菜がどのような野菜かという学習のみにとどまってしまう、鳥屋野潟との関わりや水質のよさについて気付くことができない。

そこで、「地域と学校パートナーシップ事業」を通し、鳥屋野潟の豊富な水質や生命、それに関わる人々の働きについて気付かせるため、鳥屋野潟に関わる水辺の会・鳥屋野潟漁協・鳥屋野潟公園管理組合の方々から学ぶ単元構成とした。

2 取組の実際

(1) ゲストティーチャーとの学び

① 空芯菜栽培から

5月、学校に水辺の会の方を招き、空芯菜の種まきや水耕栽培用の浮島作りを行った。また、その場で育てた苗を学校池と鳥屋野

潟で分けて栽培し、比較を行った。



種まきの様子

② 鳥屋野潟の校外学習から

7月に鳥屋野潟で校外学習を行った。潟での乗船体験（鳥屋野潟漁協）、鳥屋野潟の空芯菜の観察（水辺の会）、鳥屋野潟に生息する生き物の観察（管理組合）の3つの活動に参加した。



生き物観察と乗船体験の様子

③ オンラインでの学び

栽培や校外学習と並行して調べ学習や空芯菜の観察を行っていくと、子どもたちも疑問をもち始める。水辺の会の方とzoomでオンライン質問会を行ったり、メールでやりとりしたりすることで疑問を解決した。



オンライン学習の様子

(2) 子どもたちの学び

① 子どもの問題意識

単元の初め、学習について受け身だった子どもたちが進んで学び始めたのは、空芯菜の栽培がきっかけだった。学校池の空芯菜の生育が悪く、食べられるような状態にならなかった。それに比べ、鳥屋野潟で育てた苗は倍以上に育ち、家庭で試食して楽しむことができた。「なぜ鳥屋野潟の空芯菜は育つのか？」と疑問をもったことで、鳥屋野潟の水の豊富な栄養にも目を向け始め、学習を深めることができた。



比較の様子（左：学校池 右：鳥屋野潟）

② 学習のまとめ

学んだことを視点ごとに「空芯菜と鳥屋野潟のつながり」「鳥屋野潟の生き物」などのテーマに整理し、ロイロノートを用いたプレゼン発表をゲストティーチャーや保護者の前で行った。メールやオンラインでの資料と実際に見た写真を照らし合わせながら、まとめる姿が見られた。

3 成果と課題

及び本実践で育成された資質・能力

(1) 成果

本実践では、比較を通して課題を見出し課題解決する力を育成することができた。学校池と鳥屋野潟の空芯菜の比較により、子どもが疑問をもち、思考する姿が多く見られたことが成果である。また、ゲストティーチャーからいただいた資料や校外学習の写真等の学びの蓄積をロイロノートで共有し、自分たちのプレゼンに使える情報を選択・抜粋することを通して、課題解決に迫ろうとする情報整理の力が身についたと考える。

(2) 課題

本実践では、児童が今の鳥屋野潟について触れることはできたものの、今後の自分たちの生活にどう生かすか、これから地域とどう関わるかについて考えるところが希薄だったと思う。テーマによっては鳥屋野潟のポイ捨てやイベントなど、自分たちの生活に結び付けられるようなことを調べ、提案する班もいたが、全体に繋げられなかったのが課題であると考ええる。

4 おわりに

今回の成果は、鳥屋野潟で空芯菜を育ててくださる方、鳥屋野潟での情報を提供してくださる方等、地域のゲストティーチャーの協力があってこそ成し得たものである。

子どもたちの学習に協力して下さった地域の方や、その方々と児童を繋いでくれた地域コーディネーターに感謝しながら、これからの当校の総合的な学習の時間をより深い学習にしていければと思う。